

## 国際大学の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### I. 全学共通

1. 言語の壁を超えて多様な環境でグローバル・リーダとして活躍できる人材を育成するため、全ての授業および研究指導を国際共通語である英語で行う。
2. 全ての授業科目において授業の達成目標、教授法、成績評価方法、事前事後学修の内容や学位授与の方針との関連性等を詳細に記載したシラバスを作成し、シラバスに沿った授業を行う。
3. 各学生がもつ多様な研究課題に対して少人数制または個別にきめ細やかな履修／研究指導を行い、学生の学びを促進させ、評価基準を満たす学位論文または研究レポートを標準修業年限内に提出できるよう支援する。

### II. 修士課程共通

1. 各研究科において、それぞれの教育課程に「指定必修科目」「選択必修科目」「自由選択科目」の3つの履修区分を置き、各教育課程に属するすべての学生が修得すべき基礎科目を「指定必修科目」、多様な専門科目の中で学生が優先的に履修すべき科目を「選択必修科目」、その他の科目を「自由選択科目」とする体系的なカリキュラムを提供する。
2. 学生による全科目を対象としたコース・エバリュエーション（各コース終了時評価アンケート）と修了時サーベイ（修了予定者向けアンケート）の結果を授業内容の改善や学修成果の評価に効果的に活用し、教育課程の内容の充実と学修成果の向上を図る。

### III. 国際経営学研究科 修士課程

1. グローバル・ビジネスの最先端で堅実な理論と実践力に基づき、適切な経営を実践する能力を涵養すること、および常に国際的社会的責任を意識して職務を全うしうるリーダーを育成することが、本研究科の2つの目標である。この目標に向けて、(1)経営の基本となるスキルと知識を鍛錬すること、(2)本学学生の国際的多様性を活かして広範で多彩な能力・視野・信念を持つ学友と相互理解に向けて切磋琢磨するよう、グループ学習を基本とした教育環境を醸成することに注力する。具体的には、ケース討議や多国籍メンバーによるグループ発表など、実践的教育手法を組み合わせ、双方向の教授法により国際的課題に対する分析能力と問題解決能力の獲得を促す。
2. ディプロマ・ポリシーで学位授与の条件として掲げる「知識」「スキル」「学術的態度」を学生に修得させるため、専門科目を段階的に提供することで、効果的なカリキュラムを編成する。学位ごとの提供科目の特徴は以下のとおりである。

#### <修士（経営学）>

修士（経営学）の学位は、以下の3つのプログラムいずれかの、独自のカリキュラムを履修し学位授与の条件を満たした者に授与される。

#### 1) MBA プログラム

MBA プログラムでは、多文化・異文化理解をベースに問題を分析し、解決策を見出し、社会的責任をもって解決策を実行できるリーダーを育成するため、実践的なビジネスの知識とスキルの修得に向けての教育を提供する。第一には、ビジネスリーダーに求められる経営知識や問題解決能力の修得のため、様々なビジネス関連科目を提供する。第二に、リーダーシップ関連科目でリーダーシップの基礎を身につける。第三にビジネス倫理関連科目では国際的視点からの学生の社会的責任意識を涵養する。加えて、「国際経営」や「人的資源管理とタレント・マネジメント」などの指定必修科目や選択必修科目を履修することで、多文

化・異文化理解を深める機会を提供する。さらに、広範な選択必修科目の中から柔軟に科目を選択することで、各自が求める知識とスキルの専門性を磨き、強化することができるよう科目を設計する。

## 2) MBA 1 年制プログラム

MBA 1 年制プログラム (IMBA) では、基本的なビジネススキルを修得すると同時に、各自が特定分野の知識を深めることができるよう、選択可能な授業科目が提供されている。カリキュラムの中心となる授業科目のうち、「企業の社会的責任 (CSR) 論」は学生の社会的責任意識を高め、「リーダーシップ・ブートキャンプ」は実践的なリーダーシップスキルを向上させる。また、「経営戦略」と「戦略シミュレーション」では戦略的な意思決定を疑似体験する。さらに「ビジネス・プレゼンテーション」の履修を通じて、学生は多文化・異文化への理解を深める。加えて、経営、財務、マーケティング分野の選択必修科目、例えば、フィンテックやデジタル・マーケティング等を柔軟に選択することで、各自が指向するビジネス分野の知識を更に深化させることができる。

## 3) 日本・グローバル開発学プログラム (経営)

日本・グローバル開発学プログラム (経営) では、日本のビジネス慣習と経験に重点を置き、実践的な経営知識とスキルに関する教育を提供する。学生が実践的なビジネス知識と実行スキルを修得するため、様々なビジネス関連科目が提供されているほか、リーダーシップ関連科目ではリーダーシップの基礎を固め、ビジネス倫理関連科目においては国際的な社会的責任意識を涵養する。指定必修科目の「国際経営」は多文化・異文化理解を深めるコア科目である。「日本的経営と企業統治」や「日本のものづくり経営」等、指定必修科目や選択必修科目として提供されている様々な日本関連科目の履修を通して、日本の経営とその歴史的背景を理解することが本プログラムの主目的である。さらに選択必修科目の中から柔軟に科目を選択することで、各自が求める自身の知識とスキル分野を重点的に強化することができる。

### < 修士 (デジタル経営学) >

修士 (デジタル経営学) の学位プログラム (デジタルトランスフォーメーション (以下 DX と略称) プログラム) では、重要なビジネススキルを学びながら DX の実践的テクニックを修得できる授業科目を提供する。実務的なビジネス知識を修得するため、様々なビジネス関連科目が提供されているほか、リーダーシップ関連科目はリーダーシップの基礎を固め、ビジネス倫理関連科目では学生の社会的責任意識を涵養することを目指す。また、「デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル」、「DX のマネジメント」等、デジタル技術に関連した指定必須科目を用意し、最新の情報技術の基礎を理解するとともに、プログラムの主眼として「デジタル変革を実践する経営手法」を学ぶカリキュラムとなっている。加えて、選択必修科目を多数設置し、学生の目標達成を支援する。

### < 修士 (社会起業経営学) >

修士 (社会起業経営学) の学位プログラム (国際社会起業家プログラム) では、多文化・異文化理解を基礎として特定の社会的課題を各自が設定し、経営思考に則り持続可能な解決策を確立するための「知識」と「スキル」を修得する。このために「経営戦略」や「地域資源とソーシャルビジネス」等の経営関連科目を中心に授業科目を提供する。また、社会的責任意識を持ったリーダーとして行動するための「知識」と「スキル」を修得するための科目とともに、多文化共生に関する理解を深める「国際経営」や「フィールド・スタディ」を提供する。加えて、国際関係学研究科の専門科目を多数含んだ選択必修科目を提供し、学生の学修目標および目指す起業の達成を支援する。